スコーレ・マスターズ通信

第30号
平成21年1月27日

首都圏交流会を開催　マスターズ研修と交流会で充実の時間

12月13日(土)14時から本部研修室において、人生学・心身開発トレーニングの合同研修を開催し、40名が参加。永池榮吉会長から次の講話をいただきました。

会長講話(要旨)

昨今の社会・家庭での状況(即ち、①学校や家庭での暴力・いじめや不登校の増加、②不眠症の人やニートの増加、③うつ病・自殺・離婚の増加…等々)の背景に何があるかを考えると、日本型個人主義の問題点にその原因が見えてくる。

(1)日本の個人主義には「神」がない

日本の個人主義は信仰を持たないため、人間の強さの根源である生きていることへの敬虔な感動が希薄である。

(2)日本の個人主義は「国」を忌避している

「市民」や「個人」のみに軸足を置き、国家は個人のために個人は国家のために、という市民社会を担うべき相互関係がない。

(3)無原則の平等主義が蔓延している。

欧米の平等主義は「神の前の平等」を前提としているのに対し、日本の平等主義は何事にも平等で原則がない。(親子平等、生徒教師も平等、運動会も皆1番…等々)

(4)日本の個人主義は土着性を排除してきた。

「土」に染みついた暮らしの文化から離れ、便利なもの・機能的なものを求めた結果、人がバラバラとなってしまった。即ち、理念のみの個人主義として理解された。

このような状況の中、我々は「親子の絆」を育てていくことが重要である。自分は「一人」であって「独り」でない。親、祖先からつながる計り知れない人たちの命が自分の中にあり、そんな「内なる親」との絆を大切にしていかなければならない。

(講義の内容を含んだ論文が日本家庭教育学会会誌に掲載される予定です)

交 流 会

研修終了後の17時より、ホテル ザ・エルシィ町田の翡翠の間において毎年恒例の首都圏交流会を開催。36名の参加があり、金井事務局長の司会で約2時間の和やかな時間を過ごしました。

司会の巧みな案内で会長、三橋代表幹事から挨拶があり、会食に移りました。その間、初参加の三代一元氏・篠原哲夫氏(浦安)、杉本道昭氏(城西)、田口喜代美氏(神奈川)、渡邊旬氏(長野)から一言ずつ発言をいただきました。

最後に新年のそれぞれの活躍を期待しながらお開きとなりました。

岐阜：生きがい講座予告

スコーレ・マスターズ岐阜では下記日程・要領で第6回生きがい講座を開催します。お近くの方は是非お誘いあわせの上、お越しください。

日時：2月22日（日）10：00～12：00
場所：じゅうろくプラザ岐阜(5階　中会議室)
　　岐阜市橋本町1丁目10-11　電話：058-262-0150
講師：(社)スコーレ家庭教育振興協会会長：永池榮吉
受講料：1,000円
申し込み先：スコーレ・マスターズ東海中部地区実行委員会
　　㈱コデラ内　小寺房征　　電話：058-272-0928
後援：岐阜県教育委員会　岐阜市教育委員会　大垣市教育委員会

平成20年6月14・15日
マスターズ宿泊研修演壇より

早朝研修のめぐみ

中国地区　岩井一弘

このたび、23年間営業活動に携わって一昨年と昨年の二年連続で事業計画達成と個人目標を大幅にクリアしたことが本社に認められ先週の6月6日に表彰を受けました。表彰など自分には縁のないことだと思っていたのに、夢ではなく、実現できたのでした。

今から6年前、妻がスコーレに入会して、家の中で楽しそうにしている姿を見て、私も興味がわき早朝研修について行くようになりました。

スコーレの学びはこころを豊かにしてくれました。また、日々スコーレ活動に取り組まれる皆さんの姿勢は、営業をしている私にとって大変参考になりました。皆さんの明るく元気で素直な演壇を聞くことは、私にパワーをいただくこととなって、翌日の仕事に力を与えてくれました。

横田主管ご夫妻から「夫婦両輪での学びが大切です」と教えていただき、週に一度の早朝研修ですが、休まず続けています。

早朝研修で道標の唱和の中に「今日一日」と始まる言葉のフレーズが私の気持ちをすこしずつ盛り上げてくれました。仕事の上では、まずお客様の立場に立って今より便利で使いやすい商品で喜んでもらえるような提案書作りから始めようと思いたちました。

それからは、気持ちを切り替え、今日一日売れても売れなくてもお客様の立場に立った営業活動を心がけ、毎日あきらめずに提案書を持って地道に歩くことを続けました。そのような積み重ねの中から、良い出会いが生まれて、一つの受注ができ実を結んでいきました。

そして、少しずつですが、売り上げが伸びていき、そんな私の姿が職場の雰囲気を変えて、まわりの協力が得られるようになりました。

売り上げが伸びることで自分に自信がつき、その喜びが、会社の仲間に伝わり、周囲に和が生まれ、その勢いに乗って、皆の力で大きな目標を達成することができました。

永池会長の「こころの添え木」のテープの中に私の大好きな”時を耕し成るを待つ”という言葉がありますが、営業を続けてきて、やっと花が咲き始めた気がいたします。

この花を満開に咲かせるために、今後ともスコーレで夫婦実践を続けてまいります。

ありがとうございました。

♪♪♪ 投稿コーナー ♪♪♪

オリンピックの意義とは

町田・相模ブロック　大槻信幸

柔道は周知の通り、日本を代表する武道である。武道とは辞書によると「伝統的な日本武術から発展したもので、人を殺傷・制圧する技術に、その技を磨く稽古を通じて人格の完成をめざす」とある。しかしながらオリンピック競技に認定されると西洋思想を受け、勝敗を決めるスポーツのようになってしまった。

背中が畳につけば一本になるというルールから、相手に自分の体重を必要以上に浴びせたり、またそれを阻止するため、無理な姿勢から倒れ、多くの負傷者が出ている。柔道には怪我を防ぐ「受身」という技術があるが、試合ではあまり見たことがない。北京オリンピックでもテーピングや包帯を巻いた選手が目立っていた。

1984年のロサンゼルスオリンピックで、日本の山下選手が金メダルを取ったが、印象深いのは、

決勝を戦ったエジプトのラシュアン選手の態度である。彼は、山下選手が右足を負傷していることを知っていたが、そこを攻めず正々堂々と試合をした。結果彼は銀メダルに留まったが、彼の姿勢に日本国民は賞賛した。技術の競技としては金メダルを逃したが、人格の競い合いであれば、彼こそが金メダルに値すると思う。

適度な競争は向上心や意欲を育むが、度が過ぎると、自己中心的な考えや感情が強くなる。選手達は、国を代表して参加している。勝敗より相手を思いやる態度を重視すれば、選手のみならずその国も評価されよう。オリンピックが人類平和の象徴となり、世界を先導する祭典となることを願う次第である。

参考　「空手史」大西栄三著

連　載

父親の役割　④

岐阜ブロック　小寺房征

Ⅳ　父親の権威の低下

家庭でのマナーとルール

核家族化が進み、父親と子供、母親と子供が密着しすぎて親子間の緊張感がなくなってきたように思えます。なれなれしくなってきて親子のマナーも希薄になり、少子化によって、子供たち、兄弟同士でのマナーもなくなってきました。また個人主義とかでお互いに干渉しなくなってきました。

子供が親を敬う、家庭でのルールを守る、この最低限の基本を私たち親が作っていかなければなりません。子供たちが社会で生きていくためのルールの基本なのだから、家庭でマナーを習得し実践して社会で役立つように。人間が社会的存在となるに連れ、今までの母親との関係が、父親との関係に変わっていかなければなりません。そこに父親の必要性があると思います。

子供を導くのは学校ではありません、家庭です、父親と母親です。もうひとつあえて言うなら、隣近所です、地域社会です。私が父親不在だったから心からそう思います。

人生学講座

Ⅴ　隣近所、地域社会

嫌われていたオクイおばあさん

私はひねくれた性格でしたから、ぐれて当然だったのに、なんとかまともに育ったのは、オクイおばあさんがいたからだと思います。私がというより地域の子供たち皆です。このオクイおばあさん、皆から嫌われていました。

学校の帰り道、このオクイおばあさんの姿が見えると見つからないように遠周りをしたり、行き過ぎるのを待ってから帰ったりしたものです。なぜなら、「お前は何処の子供じゃ、挨拶も出来ないのか、挨拶も出来ないような子はろくなものにしかならん」「道草ばかりして早く帰りなさい、早く帰って家の手伝いをしなさい」「そこはよその畑じゃ入ってはいけない、他所のものを取ってはいけない」「勉強はしているか、帰ったら宿題をするんだぞ」といつもいつも、小言ばかり言われていたからです。「お前は賢いのう、よくお手伝いをして、今度お母さんに言っておくからな」と、たまに誉められることもありましたが、学校帰りや遊びに行く時には、いつもオクイおばあさんは何処かで待っていました。今思うとこのおばあさん、別に子供たちを待っていたわけではないのだけれども、神出鬼没で子供たちを待ち構えているように思えました。

７年ほど前にオクイおばあさんは亡くなりましたが、葬儀には「おばあさんのおかげで今の私達がある」と、そのころ学生だった人たちが大勢集まりオクイおばあさんを見送りました。喪主の方も「嫌われ者の母だったけれどもこんなにたくさんの方が見送りに来てくれて大変嬉しく思います」とお礼を述べておられました。100歳でした。50年前でもおばあさんだったのですね。このように私達は地域の人たちに見守られながら育ちました。今のように隣の子供にも声をかけられないなんて考えられないことです。隣の子供に声を掛けたら「うちの子供が何か悪い事したんですか、あなたに怒られる筋合いはない、余計な世話を焼かないでください」といわれる始末。子供たちからも「すみません」という言葉なんて返ってきたことがありません。

Ⅵ　父性の必要

父親のリーダーシップ

今こそ、私達父親が立ち上がらなければいけないと思います。父親と母親の力が平均化してきた現在、父親の権威と母親の権力をバランスよく保つ必要があるのではないでしょうか。その上に「敬」の心を養うことが必要でしょう。「敬」の心とは、敬うと言うことですが、マナーといったほうがわかりやすいかと思います。年上の人をいたわる、目上の人に頭を下げる、友達とか子供達にも約束を守る、ということではないでしょうか。そして家庭の中でリーダシップを発揮することです。会社でも社長が必要なように、家庭でも社長が必要です。そのとき社長が二人ではだめです。子供達がどちらについていったらいいかわからないから、前にも述べましたように、10歳ごろには父親が必要になってきます。また大人たちのつく、うそごまかしなどを見抜きますし、親を批判します。このような状況の中で、父親としての役割をしっかり果たす必要に迫られてきています。

家庭の再生

小中学生の不登校が13万人にも上っています。また青少年の犯罪も増えてきています。中でも父親、母親を殺すと言うような考えられないような犯罪がです。この原稿を書いている間も、京都府では女の子が寝ている父親を斧で殺す、一週間もしないうちに長野県では中三の男の子が斧で寝ている父親を殺すという事件が続きました。報道やネットの普及で連鎖的に、衝動的におきています。また、いまの子供たちは自分をコントロールすることが出来ない、感情のままに走る、自分さえよければという感じです。学歴偏重の社会、悩みや不満を感じ取れない父親が多すぎます。性格の良い子に育てるのには父性が必要です。いま父性が欠如しています。社会規範を子供に教え、自己中心の考えを、修正させる必要があるのではないでしょうか。

先ほども述べたように、親子間の緊張がなくなってきた。道徳観もなくなってきた。それぞれが家族ではなく個族として生活している家庭、これでは家庭の崩壊が進むばかりではないでしょうか。“家族道徳の再生”“家庭の再生”これがスコーレの説いている道です。

（つづく）

マスターズ会員　早朝研修に精励

毎朝各地の教室で開催されている早朝研修に参加されるマスターズ会員が増加しています。スコーレ活動の基本は早朝研修にあります。是非、経験されることをお勧めします。

昨年１年間（1月1日～12月31日）の早朝研修への参加で、次の各氏が表彰されることとなり、新年全国各地で開催された新春寿交禮にて表彰状が渡されました。（敬称略）

【精勤賞＝欠席10日まで】　4名
（城西）長久保定夫　（八王子）小林　晃
（富山）笹井喜郎　（東海）鈴木修三郎

【努力賞＝出席300日以上】　8名
（苫小牧）中澤利治　（八王子）米村　陽
（町田相模）藤田和弘　（　同　）原　健一
（　同　）相澤一男　（城南）岡本一誠
（青葉都筑）霜田千代松（石川）近藤　悠

マスターズ会員の表彰者は平成16年3名、17年７名、18年10名、19年11名、20年(今回)12名、と年々増加しています。

ハンド・イン・ハンド　マスターズも協力
全国43ヵ所で街頭募金

昨年12月14日(日)、ユニセフ（国際児童基金）の第30回「ハンド・イン・ハンド」に協力、スコーレでも全国43ヵ所830名が街頭募金を訴えました。各地でマスターズ会員も家族と一緒に街の人々に声をかけました。集まった1,161,740円の浄財は(財)日本ユニセフ協会に贈られました。

家族揃っての募金活動は、子どもたちにとって貴重な経験となるでしょう。是非、次回活動への皆様の参加を期待します。

＊編集後記＊　ＧＮＰ(国民総生産)ならぬＧＮＨ(Gross National Happiness)＝国民総幸福量)という考え方を初めて知りました。「国にとって大切なのはＧＮＰではなくＧＮＨである」これは仏教国であるブータンの国王の言葉で、実際、ブータンの国是になっているそうです。開発と消費をベースとした経済発展が環境を破壊し、皮肉にも発展によって人類自らの存在が脅かされている現在、考え方を転換する必要性を感じさせられました。スコーレでも経済的な豊かさが必ずしも人間を幸福にしないこと、生き方の大切さを日々学習させていただいています。経済不況の暗雲が世界中を覆っている現状ですが、こういう状態にあってなお、ＧＮＨが増大するような社会・個人としての行き方が求められるような気がします。　（白石　英樹）

青	朱	白	玄
春	夏	秋	冬

昨年の後半から100年に一度と形容されるように前半の様相とは大きく変り、なにもかもがすっかり冷え込んだ感がある。このような中、せめて縁起のいい初夢でもと大いに期待していたが、見たのやら見なかったのやら。皆さんの初夢はいかがでしたか。

最近、朝起きたとき夢を見たのは覚えているのだが、内容が思い出せないことがしばしばある。一方で、遠い昔見た夢に鮮明に覚えているものがある。表現しにくいが、真っ暗な中、昔風の映画館だけがぽつりとあり、入り口脇にある上映映画か予告映画のポスターが飾られているウィンドーに裸電球が灯っている。何の意味も無いこれだけのことである。この夢のせいでもなかろうが、家庭での照明を選ぶ折、蛍光色より電球色を好む傾向がある。子供の頃の、乾いた草の匂いが漂ってくるなかで、薄暮から夜へ変わるときの電球の照らす色が懐かしく思い出され、なんとなく温かみを感じ、癒されるような気がする。

その頃停電がよくあったような気がする。今は事故、災害でもない限り長時間にわたる停電はなく、まことにありがたいことである。元日のラジオ放送でカトマンズからのレポートがあり、その中に、水力発電に頼っているため、冬場の水不足の影響から電力不足となり、停電が余儀なくされているとあった。マスターズの同輩がカトマンズで国際貢献を実践されているが、どのような新年を迎えられたのであろうか。（梶 田 健 二）

当面の行事予定

■ 2月8日(日)、3月8日(日)★
　マスターズ　心身開発研修（本部研修室）
■ 2月22日(日)、3月15日(日)★
　マスターズ　人生学研修　（本部研修室）
■ 2月22日(日)　東海中部「生きがい講座」
　(岐阜市)
■ 3月下旬　マスターズ通信第31号発行予定
　(広報委員会)
■ 4月～9月マスターズ上期研修実施
　(本部ビル・新研修室)
■ 4月下旬　冊子「危機管理・対応事例集」
　第3集発行予定　（危機管理研究会）
■ 6月中旬　マスターズ年次総会&研修
　(箱根湯本ホテル)
★ 3月より研修は新スコーレ会館で行う予定

編　集：社団法人 スコーレ家庭教育振興協会
スコーレ・マスターズ　広報委員会
発行人：小俣富雄
〒194-0013　東京都町田市原町田4-7-12
TEL ： 042-728-7948
http://www.schole-masters.org